

城里町の文化財さんぽ(三)

町指定文化財「天然記念物」

「スタジイ」

指定年月日/平成七年二月一日  
所在地/城里町石塚 管理・所有者/城里町

スタジイは、太平洋岸の福島県及び日本海岸の新潟県を北限とし、沖縄県の波照間島を南限とするブナ科シイ属の照葉樹です。開花期は五〜六月で、一年越しの翌年秋に小さな堅果(ドングリ)が熟します。

町指定文化財の「スタジイ」は、城里町役場北側のスタジイ広場内にあります。この地は、明治時代後半から長い間、水戸専売公社石塚出張所の敷地内でした。



同所が閉鎖された昭和六〇(一九八五)年以降は町有地となり、「スタジイ」も町民にとって身近な存在となりました。

樹高は一一・五メートル、幹回りは四・二八メートル、推定樹齢は三五〇〜四〇〇年とされています。県内の巨木と比べて、飛び抜けて大きくはありませんが、直径一五メートルほどの傘状に広がる樹形の美しさは他に類を見ません。まさに、城里町のシンボルにふさわしい堂々とした姿です。

そのようなことからでしょうか、城里町のスタジイは、雑誌や情報誌等でもたびたび取り上げられています。

ところで、スタジイは某企業グループのコーポレーションに登場する「この木、何の木」に似ていると話題になったことがあります。あちらは、ハワイのモンキーポッドというマメ科ネムノキ属の樹木です。両者は全くの別種ですが、町民や会社の願いを担っているという点では、共通しているようです。

解説文/町文化財保護審議会会長 小山映一  
問合せ 教育委員会事務局

☎029-288-3135

俳句

ぶしつけにぶつかつてくる春の雪  
飯田 勇一  
制服を映す姿見風光る  
鯉淵 寿美恵  
春疾風斜面駆け抜く競走馬  
綿引 英子  
道迷ふ事も楽しく花菜風  
仲田 まちゑ  
内海の養殖筏風光る  
今瀬 多代美  
雀来る明日は種蒔き春夕焼  
森 静江

文芸しろさと

短歌

帰郷の孫娘に「垢抜けしたね」と  
褒めやれば「眼が悪いの」と笑み  
つつ答ふ  
山形 式妙  
寒なれど待たるる顔々温かし  
ゲートボールの「孫根地区」かな  
杉山 みちこ  
未だ固きつばみなる鉢の風信  
子求めきて春を共に待ちをり  
渡辺 千紗子  
山の辺に湧水流るる音のし  
て春の鼓動と水を掬ひぬ  
大森 久子

川柳

坂登るおでこや頬に風光る  
中野 千賀子  
梅満開水平線の見える丘  
飯村 昭子  
春を待つ花壇ぐつすり眠りけり  
竹内 幸子  
春惜しむてらら光る葉書の葉  
瀬谷 博子  
梅白し六・三・三を履みし孫  
岩下 金司  
頂へ鳶突き上ぐる春疾風  
田口 勝元  
春爛漫九十五才の祝かな  
寺門 孝子  
坂登るおでこや頬に風光る  
貧乏性そちらこちらに不用物  
富田 多蔵  
新品と期待を背負って一年生  
車田 綾子  
トランプのばばをひいたらた  
いへんだ!  
飯村 孝一  
城里の山菜取りや列をなし  
川原 清

年明けて風邪もひかずに米寿  
なるつくづく思ふ生きる厳しさ  
青柳 京子  
正月の二日はうから集りて  
初曾孫も来て賑々しかり  
所 美恵子  
独り居の友の心をなごませて  
「思いのまま」とう梅咲き満つる  
枝 不美  
赤沢江に積もりし雪は立春  
の光の中にとけて流るる  
島 愛子  
知り合いの息子さんの死悲しく  
て言葉も出でずに涙こぼれる  
坪井 きよ子  
冬ざれの山間の道続きけり  
米寿の姉の家はまだ先  
萩谷 登喜子

※「文芸しろさと」へ作品の掲載をご希望される方は、①住所、②氏名、③作品の種類別、④作品(掲載は1作品のみ)、⑤連絡先を記入のうえ、まちづくり戦略課まで郵送または直接持参してください。  
応募先・問合せ  
まちづくり戦略課  
(〒311-4391)  
城里町石塚1428-25  
☎029-353-7040